



「大道無門」 金澤 翔子／書

【特集記事】

◆私の一冊

社団法人 新潟県電子機械工業会 専務理事 吉野 孝也 さん …… 3 p

◆おかげさまで95周年 長岡市立図書館の歴史

昭和20～40年を振り返る（シリーズ第3回目） …… 4～5 p

館長通信

～鏡像の自画像～ *mirror, mirror, I'll be your mirror.*

去る10月、金澤翔子書作展の入場者がもうじき1万人を越えようかというある日、会場で知人に声をかけられました。「入り口でもらった栃尾美術館若井宣雄展のチラシ。裏面のこれ、不思議な肖像写真だね」

写真家の倉茂義隆さんが手がけた画家の肖像写真は、確かに不思議な魅力をたたえています。「雰囲気や印象もそうだけど、ロジカルにみて不思議なのさ」

写真は83歳の時の大作「自画像」の前に佇む画家の横顔を撮影したものの。自画像の方はスモック姿、右手に絵筆、左手にパレット。手前の若井さんをモデルに、画中の若井さんが絵筆を振るうという構図です。奥の自画像からは、画家の鋭い視線が感じられます。

「手前の若井さんのシャツ、男物なのにボタンは右前だ。写真の裏表が…とも思ったが、右利きの若井さん、絵筆は右手にあるし、スモックもちやんと左前だし…」



photo: 倉茂 義隆

理詰め^{たんすい}の指摘に戸惑い、栃尾美術館に調査を頼みました。セザンヌやマネに限らず、鏡を使って鏡像

の自画像を残した画家は多いそうです。若井さんの自画像もまた鏡を使って描いた鏡像でした。では裏焼きか…と焦りましたが、実はこの写真、さらに奥があったのです。鏡像の自画像の前で右向きに佇む画家という構図をそっくり一枚の鏡におさめ、その鏡像を撮影したものだということです。倉茂さんは撮影のために稽古町のアトリエに若井さんを訪ね、偶然目にした光景に心を魅かれ、シャッターを押したそうです。

作品の表面が、鑑賞者の眼であると同時に、画面の奥に向けて据えられた仮定の鏡面であるというこの卓抜なアイデア。かのベラスケスが作品「ラス・メニーナス」で用いた知的な仕掛けにも通じるものがあります。

(品田 満)



文書資料室だより

昭和の長岡の暮らしや世情が伝わる『越後経済新報』

『越後経済新報』は、昭和22年(1947)1月1日、北越新報社の記者だった八木淳次郎の創刊で、毎月2回(1日・15日)、長岡市内の越後経済新報社から発行されていました。

中央図書館には昭和22年から昭和28年、昭和37年頃が所蔵されていますが、一部に不鮮明な複製や欠号が多く見られます。このたび文書資料室に昭和31年と同32年の号が新たに寄贈され、その中の232号(昭和31年8月15日)・233号(同年9月1日)・237号(同年11月1日)・246号(同年32年5月1日)・250号(同年5月15日の発行なので、正しくは247)は、中央図書館の欠号分を補うかたちとなりました。

この『越後経済新報』では、当時の長岡市民の暮らしや世情が伝わるような記事が掲載されています。例えば232号には、休電日に長岡駅地下道が湛水し、靴下までグッショリ濡れたことを伝える記事が。246号では長岡市の、250号では栃尾市・三島郡のそれぞれの高額所得者が掲載されています。また250号には「長岡は裏日本一の大温泉地になる」との見出しを掲げた論説があります。

当時の商店などの広告も目を引きま^{けんこんもなか}す。「昔からの銘菓 河井せんべい」「長岡銘菓 乾坤最中 うちやま」「衣

料デパート イチムラ」「皆様の衣料品店 丸大」などの広告に往時を懐かしむかたも多いことと思います。

(小林 良子)



多くの広告で賑わう紙面

『越後経済新報』第231号(昭和31年8月1日発行)

私の一冊 私の一冊

社団法人 新潟県電子機械工業会

専務理事 吉野 孝也 さん

「いまこそ私は日本人になりたい」

ドナルド・キーン氏が発したこの一言は、東日本大震災の混乱の中、日本中の人々を勇気づけました。その本人が、日本人「鬼怒鳴門」として私の眼前に現れることになるとは、そのとき想像も出来ませんでした。

話は少しさかのぼります。2010年10月31日。300年の時空をへて、浜離宮朝日ホールで古浄瑠璃「越後国柏崎弘知法印御伝記」江戸公演が幕を開けます。実行委員長はキーン氏その人でした。古浄瑠璃の台本は、早稲田大学名誉教授鳥越文蔵氏により英国大英博物館所蔵品のなかから発見され、そのまま長い年月封印されていたものです。

古浄瑠璃の太夫・越後角太夫上原誠己氏（越後猿八座）、鳥越文蔵氏、キーン氏、更に上原氏と姻戚関係にある吉田康氏（株ブルボン代表取締役社長）という縁の中で、蜘蛛の糸にたぐり寄せられるようにして居る私自身に、今更のように驚いています。



よしの・こうや

1947年生まれ 柏崎市（旧西山町）出身
元 新潟県職員

2008年3月 新潟県立歴史博物館を退職
社団法人 新潟県電子機械工業会 専務理事
財団法人 吉田奨学財団 評議員

『ドナルド・キーン著作集』

第一巻 日本の文学

ドナルド・キーン／著

吉田 健一／訳 篠田 一士／訳

大庭みな子／訳 平野 勇夫／訳

新潮社

（全15巻の内、第五巻まで既刊）



お話を時系列で整理してみます。

1962年 鳥越文蔵氏、大英博物館にて古浄瑠璃「越後国柏崎弘知法印御伝記」台本を発見

2008年10月 キーン氏、文化勲章を受章

2010年10月 キーン氏を実行委員長とし浜離宮朝日ホールにて古浄瑠璃「越後国柏崎弘知法印御伝記」全編を上演

2011年3月 3.11東日本大震災発生。原発放射能漏れにより世界を震撼させる事態に。キーン氏、大震災の惨状を前に「いまこそ私は日本人になりたい」と日本国籍取得を表明

2011年9月1日 キーン氏、日本永住のため来日

2011年12月 ニューヨークの居室家具、書籍等を（株ブルボンに寄贈（ドナルド・キーンセンター構想発表）

2012年3月8日 キーン氏、日本国籍を取得（日本名・鬼怒鳴門）

この流れの中で思いもかけず私も開設にかかわることとなった「ドナルド・キーンセンター」が、ニューヨーク時代の氏の居室を復元して、今秋柏崎にオープンします。

永井道雄、三島由紀夫、安部公房、谷崎潤一郎、川端康成、吉田健一、石川淳、司馬遼太郎、篠田一士、大江健三郎等との交友。日本人以上に日本の深層にふれ、古典から現代文学に及ぶキーン氏の研究分野は想像を絶する深さと広がりを持ちます。

2011年冬から全15巻の刊行が始まった『著作集』は日本文学に親しむ喜びをあらためて教えられる格好のガイドブックです。ゆっくりとした時間の中で、鬼怒鳴門ワールドを存分にお楽しみください。

財団法人吉田奨学財団は、平成25年4月1日付で公益財団ブルボン吉田記念財団に移行する手続きが進められています。吉野さんは、この公益財団の業務執行理事として「ドナルド・キーンセンター柏崎」の運営に携わることになるそうです。

おかげさまで
95周年!

長岡市立図書館の歴史

シリーズ第3回 昭和21年～40年を振り返る

長岡市立図書館は、5年後の平成30年（2018）に開館100周年を迎えます。「図書館の窓から」では、年に1回の8回シリーズで「長岡市立図書館の歴史」と題し特集を連載しています。互尊文庫という名称で設立されてから今日に至るまで、図書館の歴史をひも解く特集、今回はその3回目。図書館が見つめてきた1世紀とは一。今、歴史の扉が開かれます。（※年表中の敬称は略させていただきます。合併地域の関連情報は含まれていません。）

大正4 (1915)	野本恭八郎が互尊独尊の思想を広めるため図書館「互尊文庫」の建設と寄付を市に申し出る
大正7 (1918)	6月8日、現東坂之上町1丁目東側（現長岡グランドホテル付近）に「互尊文庫」開館
昭和20 (1945)	8月1日午後10時、空襲により蔵書78,000冊すべてを失う 9月11日、有志の支援を得て第2書庫2階を閲覧室として開館
昭和23 (1948)	内藤伝吉が図書館建築費寄付を申し出る a 6月坂之上町3丁目の明治公園内に着工、11月15日竣工、同日に開館式 11月25日、新潟CIE図書館長岡分館を設置
昭和25 (1950)	書架の一部を閲覧室とし、出納方式から接架式を採用 読書週間にトラックに臨時書架を載せ、代用自動車文庫として市内を移動、貸出しを実施 b 6月26日、レコードコンサートを開催 7月1日、新潟県立図書館中越分館を併置 11月、諸橋健一から図書購入費の寄付
昭和26 (1951)	自動車による巡回文庫を実施
昭和27 (1952)	4月1日、アメリカ文化センター（ACC）長岡分館開館 11月27日、「長岡号」初出勤 b
昭和29 (1954)	2月20日、内藤文庫（美術）を設置
昭和30 (1955)	11月3日、創立40周年記念式典を挙げる
昭和32 (1957)	9月、中学校巡回文庫を実施 11月、大原松夫から図書購入費の寄付
昭和33 (1958)	10月11日、基本図書整備に着手
昭和34 (1959)	4月1日、5か年計画による第1次基本図書整備 2月、第1回読者のつどい開催 c 9月12日、長岡郷土史研究会発足 11月3日、野本互尊翁の胸像復元、除幕式を挙げる
昭和35 (1960)	4月1日、特許公報類（6種目）を備えつけ一般に公開 4月20日、長岡ロータリークラブの寄付によりロータリー文庫を設置 7月、青空子ども文庫の開設 d 9月、「長岡郷土史」発刊
昭和36 (1961)	川瀬清より図書購入費の寄付
昭和37 (1962)	6月12日、小学校巡回文庫を実施
昭和38 (1963)	10月15日、本館改築促進委員会発足 「長岡号」2号車を購入
昭和39 (1964)	4月1日、5か年計画による第2次基本図書整備 2月、谷内田ヨシから郷土資料の寄付
昭和40 (1965)	4月21日、井口洋の寄付により井口児童科学文庫を設置 10月11日、創立50周年記念式典を挙げる

a 互尊文庫の再建

昭和23年、内藤伝吉の寄付により互尊文庫は再建されました。本館は木造2階建て延べ111坪、書庫は鉄筋コンクリート造り3階建て延べ45坪ありました。2か年間に200万円の巨費を寄付されました。内藤はその後も寄付を続け、互尊文庫の内容充実に寄与しました。



内藤 伝吉 (1876-1954)
長岡市の繊維商。米百俵の故事にちなみ
昭和23年から寄付を行いました。

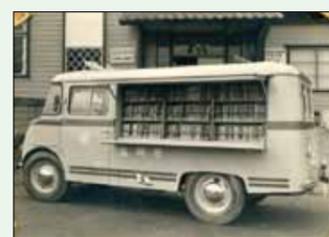


再建された互尊文庫の写真
昭和26年頃

b 自動車文庫の誕生

「昭和25年、秋の読書週間に、トラックに急ごしらえの書架を載せ、代用自動車文庫として市内を移動し、自由貸出を行ったのがそもそもの始めである。この活動は、能動的、積極的であり地域住民の側からすれば、その場で図書館資料を利用でき、図書館側とすれば不読者層開拓が容易にできる利点がある。」昭和37年発行の『自動車文庫の十年』の記述です。その後、「長岡号」と命名された自動車文庫が初出勤したのが昭和27年11月27日。当時はステーションの数も少なく、巡回も1週2日間であった、とのこと。

平成14年から「米百俵号」と名前を変えましたが、当時の活動の精神は変わることなく、雨の日も風の日も休まず巡回しています。



昭和30年頃の自動車文庫

c 読者のつどい

昭和34年2月、一般利用者から広くご意見やご希望をお聞きし、図書館運営の参考にしようと「読者のつどい」が始まりました。第1回目のテーマは「持ちよりの話題」。その後も「親子の情愛について」「友情について」「日本の現状について」など読書に限定しないテーマが続き、気軽な参加を募りました。昭和35年頃から文学作品のテーマが増え、これまで太宰治・川端康成・武者小路実篤・森鷗外・田山花袋・幸田露伴・新田二郎・三島由紀夫・モーパッサン・ジイド・チェーホフ・カミュなど多くの文豪が扱われました。「読者のつどい」は、現在680回を重ね、昔と変わらず互尊文庫を会場に、月1回のペースで開催されています。一つのテーマを取り上げ、参加者が自由に意見を交換する文学談義の場となっています。



読者のつどい 昭和34年頃

d 青空子ども文庫

自動車文庫の巡回に付随した活動として『自動車文庫の十年』は「夏休み期間中に“よい子”のため少しでも文化生活を高め、しかも正しい読書活動を助長しよう」というので、昭和35年から館外奉仕活動の一環として、周辺地域の緑陰を選んで『青空子ども文庫』を開設した。図書の内容は、伝記・童話・少年少女雑誌・絵本・探検記・図鑑・辞典・参考書など約300冊で、『ながおか号』が現地に到着すると同時にワッと車の周囲に群がり、涼しいみどりの木陰で終日読書を楽しむ」と伝えていきます。この活動は現在も『子ども緑陰図書館』と名前を変え、夏休み期間に市内数か所で開催しています。



青空子ども文庫 昭和40年頃

参考文献：『ふるさと長岡の人びと』長岡市／編集発行、『長岡市立図書館創立90周年記念誌－図書館の未来に向けて－』長岡市立中央図書館／発行、『館報 創立40周年記念号』長岡市互尊文庫／編集発行、『館報 創立50周年記念号』長岡市互尊文庫／編集発行、『自動車文庫の十年』長岡市互尊文庫／編集発行、『読者のつどい』の軌跡』長岡市立中央図書館／作成、『互尊文芸 第二号』読者のつどい事務局／編集発行、『新潟県図書館協会報 第13号』新潟県図書館協会／発行

長岡藩主牧野忠精公(1760~1831)は、わずか7歳で9代の家督を継ぎました。教養ある母俊光院と、儒学者でもある家老山本老迂齋らに育てられ、文武両道に励む聡明な藩主となります。16歳で備前守に任じられてから、次々と幕府の要職をつとめます。奏者番、寺社奉行、大坂城代、京都所司代、そして41歳で老中へとこのぼりつめました。

長岡領内では、悠久山の地を開発して天明元年(1781)に蒼柴神社を建立します。また文化5年(1808)には長岡藩の藩校崇徳館を創設し、京都から儒学者の伊藤東岸(伊藤仁斎の曾孫)を招くなど、藩士が質の高い学問を学べるように尽力しました。忠精公は墨絵が得意で、特に雨籠(蜻蛉)という想像上の生き物の絵をいきいきと描き、将軍徳川家斉に献上するほどでした。

ここに紹介するのは、それらとは一風変わって静謐な趣きのもので、大坂城代に就任して5年を経た寛政10年(1798)の書初めです。

重責を担う立場である忠精公は、永遠に変わらない富士と、同じく不変の象徴である松に向かい、心のうちをうたいます。

真っ白い雪にすっぽりとおおわれた富士山。その山すそに広がる緑深い松の林。朝日よ、天高くのぼり、人々の誠を照らしたまえよ、と長岡藩と幕府の繁栄を願い、筆をふるったのではないのでしょうか。書と画の美しさが互いに際立つ作品です。
(小熊よしみ)



富嶽ノ雪ハ 諸ニジ 松ノ性ニラ
高天ノ日ハ 照ニス 人誠ニラ
富嶽の雪は松性を諸じ
高天の日は人誠を照す
戊午試毫 朔洲精

越後文学さんぽ ~新潟出身の作家をクローズアップ~

会津八一 (あいづ・やいち) 明治14年8月1日-昭和31年11月21日 (1881-1956)

大正・昭和期の歌人、書家、美術史家。新潟県生れ。号は秋艸道人、渾齋など。早大英文科卒。明治41年初めて奈良に旅行し仏教美術に開眼、その感動を後年処女歌集『南京新唱』にまとめた。大正15年より早大で東洋美術史を講じ、昭和6年教授。その間奈良への研究旅行を重ね、4年『東洋美術』を創刊。仏教美術への造詣を深め、その集大成たる『法隆寺、法起寺、法輪寺建立年代の研究』で文学博士、美術学者としての地歩を築く。歌集『鹿鳴集』、『三光集』、作家を語る『渾齋隨筆』などの旺盛な作歌活動を経て、戦災・幼女の死を詠み込んだ歌集『寒燈集』は秋艸道人調の完成と評された。また、書の方面でも独自の境地を開き、書跡集に『遊神帖』、『会津八一の書』などがあり、奈良新薬師寺を初め各地に歌碑も多い。
著者紹介：『新潮日本人名辞典』新潮社より

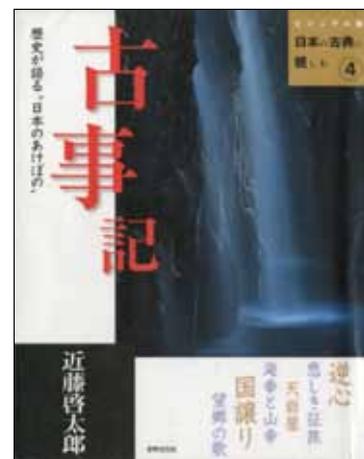
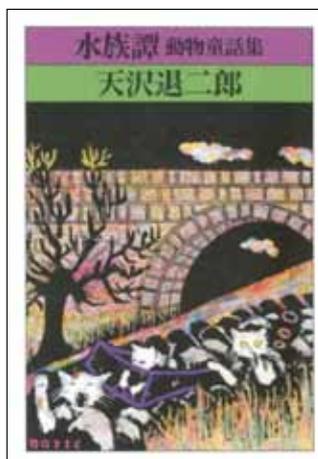


『美の彷徨：秋艸道人 会津八一』
会津八一記念館／編
新潟日報事業社

今回紹介する資料は、一昨年4月から新潟日報朝刊に連載されている会津八一の作品をまとめたものです。毎日、八一の作品(短歌・俳句・言葉)から1作とその解説という形式で紹介された、1年分366作品が収録されています。ひらがなの歌を漢字交じりにし、短歌のみならず俳句・随筆・手紙なども取り上げたことで、編者が意図したように、まさしく「八一の世界」入門編といえる内容になっています。毎朝、新聞を楽しみにしている読者も多いのではないのでしょうか。日々作品を選び解説を加えられた執筆陣の苦勞には、頭の下がる思いです。
(徳永 馨)

今年の干支は“巳(蛇)”。
神話、怪談、サスペンスに
いたるまで、様々な巳(蛇)
をお楽しみください。

蛇



『水族譚 動物童話集』

天沢退二郎／著 ブッキング

カニや蛙、水鳥など水辺に住む動物達を題材とした短編集です。その中の一編「蛇とひまわり」では、夢か現実か、その境界線が曖昧で不思議な世界が描かれています。著者は児童文学作家として知られていますが、本書は大人の方にじっくり読んでいただきたい一冊です。 (横山知加子)

『神社のことがよくわかる本』

外山 晴彦／著 東京書籍

蛇は古来より神の使いとも言われ、蛇に所縁ある神や神社も多いのだそうです。蛇を眷属とする弁財天、蛇の形の藁を飾る神社…。神と蛇との繋がりがわかるほか、神社のあれこれを教えてくれる一冊です。初詣の際には、「神社の見方」の参考にもどうぞ。 (金安 麻子)

『にいがたの怪談』

駒形 魁／著 新潟日報事業社

県内には蛇にまつわる昔話が多く存在します。女性が大蛇と化してしまう話や、龍神の化身として大蛇が登場する話など多岐に渡ります。本書で各地に語り継がれてきた不思議な話を堪能してみませんか？ (大塚 望美)

『古事記 歴史が語る“日本のあけぼの”』

近藤啓太郎／著 世界文化社

日本最古の書物といわれる「古事記」。その中の代表作といえるであろう「八俣の大蛇」では、一つの身体に八つの頭をもつ大蛇が登場します。本書では、物語の舞台とされる風景写真と共にお話を楽しむことができます。 (中川 寛子)

『雲をつかむ死』

アガサ・クリスティー／著 加島 祥造／訳 早川書房 (ハヤカワ文庫)

ロンドンへ向かう飛行機内。突然、一人の乗客がガクリと頭を下げた。針で刺されたような傷痕が見つかり、足元には蛇の猛毒が塗られた矢針が落ちていた。吹矢筒が隠されていたのは名探偵ポアロの席。犯人はどのようにして針を刺したのか。ポアロと共に、事件を解明する気分が味わえます。 (竹野 温子)

イベントガイド（1月～3月） ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

1/25 (金) 『果断』 今野 敏／著

2/22 (金) 『阿Q正伝』 魯迅／著

3/22 (金) 『下町ロケット』 池井戸 潤／著

【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室2 10:00～11:30

子どもの本に興味がある方が集って感想等を語り合う会です。

3/13 (水) 震災と児童書 ～震災後の取り組みについて～

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

1/12 (木) 13:00～「菩提樹」(1956年 旧西ドイツ)

15:00～「続菩提樹」(1958年 旧西ドイツ)

1/20 (土) 「その街のこども 劇場版」(2008年 日本)

2/6 (水) 「劇団四季 人間になりたがった猫」(2009年 日本)

3/8 (金) 「山びこ学校」(1952年 日本)

3/20 (水) 「世界名作アニメ バンビ」(1942年 アメリカ)

【早春コンサート2013】 中央図書館2階 講堂

3/17 (日) 詳細未定

市政だより・図書館ホームページ等でお知らせします。

図書館ニュース

◆帰ってきた！紅白図書合戦

中央図書館一般テーマコーナーに、平成22年に好評を博したイベント～紅白図書合戦～が2年ぶりに帰ってきました。図書館員お勧めの本が紅組白組に分かれて激突します。

著者が女性なら紅組、男性なら白組。各組50、計100点の自慢の本が、推薦コメント付きで大挙して出場します。

勝敗を決めるのは利用者の皆様。コーナー脇に紅白の得点板が設置されています。勝ったと思う方に、備え付けのシールを貼ってください。出場（展示）している本は、もちろん借りることができます。

合戦の期間は1月30日（水）まで。勝敗や展示リストはホームページ等でご覧いただけます。

【特別図書整理期間に伴う休館のお知らせ】

2月に所蔵資料の一斉点検を行うため、長期休館いたします。これに伴い、次の期間中、貸出点数を20点（うち視聴覚資料は6点）までにいたします。

図書館名	休館する期間	貸出点数変更期間
中央図書館	2/12 (火)～2/22 (金)	1/29 (火)～2/11 (月)
互尊文庫・西・南・北・中之島・寺泊・栃尾地域図書館・大河津地区図書室	2/23 (土)～2/28 (木)	1/29 (火)～2/22 (金)

名称	電話	休館日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

◆◆◆あとながき◆◆◆

長岡市米百俵財団が刊行した『One Hundred Sacks of Rice』という本があります。今号「私の1冊」でご紹介をいただいたドナルド・キーン氏が、山本有三の戯曲「米百俵」を英訳し、小林虎三郎や米百俵の精神を広く世界に発信したものです。ぜひご一読下さい。（諏佐 志保）

平成25年1月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 新潟県長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 諏佐 志保 渡辺 雄亮
岩本 純子 本間 薫

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 北越印刷株式会社